

可燃ごみが増加しています ごみの減量に向けてさらなるご協力を

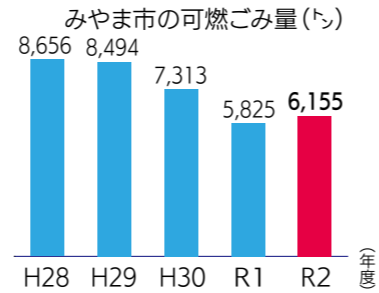
柳川市と共同で柳川市橋本町に建設している新ごみ焼却施設は、11月からの試運転、来年3月から本稼働に向けて順調に工事を進めています。その建設費約122億円の負担金は令和4年度の両市それぞれの間のごみの量で決まります。

以下の表は、両市の令和元年・2年度の可燃ごみの量の実績です。

■みやま市・柳川市の可燃ごみの量※みやま市の可燃ごみの量が前年度に比べて330ト増

	令和元年度	令和2年度	増減	人口	1人あたり
みやま市	5,825ト	6,155ト	プラス330ト	36,378人	169 ^{キログラム}
柳川市	15,906ト	16,062ト	プラス156ト	64,576人	249 ^{キログラム}
合計	21,731ト	22,217ト	プラス486ト	100,954人	418 ^{キログラム}

令和元年度までは可燃ごみの量は順調に減少していましたが、令和2年度は前年度に比べ330ト増加しています。これは、コロナに伴う外出の自粛や、衣類リサイクルの中止、昨年7月の豪雨災害での災害ごみ処理も増加した要因となっています。



■みやま市の特色ある分別方法でごみ減量

「混ぜればごみ 分ければ資源」。分別することで可燃ごみを減らすことができます。ごみ減量に関心を持ち、ほんの少し工夫することでごみ減量や経費削減、ひいては環境保全にもつながります。みやま市のごみを資源に活かす分別方法の一部をご紹介します。

①生ごみ分別



生ごみを分別(毎週2回収集)



バイオマスセンターで液肥に



液肥は水稻の生育や家庭菜園に使われています

②紙おむつリサイクル



紙おむつ



市内40か所に回収ボックス設置 ※いつでもだせます。



パルプとして生まれ変わり、建材などに再利用

③アルミ付き「紙パック」(焼酎・日本酒・豆乳など)



銀色と白とに分けて、分別収集か古紙回収日に出してください



トイレットペーパーなどにリサイクル

避難行動要支援者の支援にご協力ください

総務課 防災対策室 (Tel64-1502)
介護支援課 高齢者支援係 (Tel64-1570)
介護支援課 介護保険係 (Tel64-1555)
福祉事務所 福祉総務・障がい福祉係 (Tel64-1530)

高齢者・障がいのある人などの要支援者を地域で見守り、支え合い、災害に備える

災害が発生したとき、被害を軽減するためには、まずは迅速で適切な避難が欠かせません。

高齢者や障がいのある人など、災害時に自ら避難することが困難な人で、円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する人(避難行動要支援者)の情報を事前に把握し、日頃から見守り支え合うことができる地域づくりが求められています。

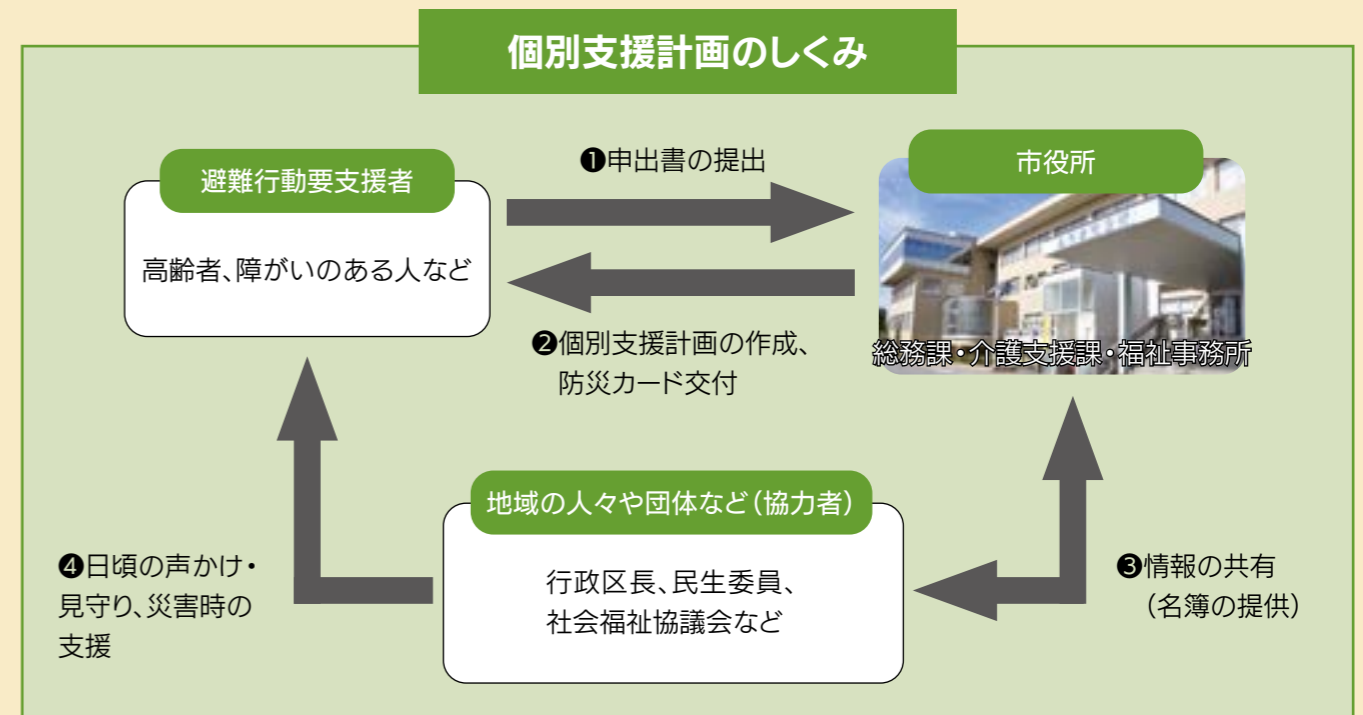
個別支援計画について

災害時に避難支援を円滑に実施するには、避難する際の協力者をあらかじめ見つけておき、日頃から地域での支援体制を構築しておくことが重要です。

個別支援計画は、要支援者を効果的に支援するため、より詳細な情報を記載した計画です。

支援を希望する人は、「個別支援計画作成申出書」を市へ提出してください。この申出書には、要支援者本人の情報、緊急連絡先となる家族や親族の情報、支援に協力する協力者の連絡先などを記入します。協力者は、隣近所の住民などで、事前に登録の同意を得てください。

「協力者」は地域のボランティアとして協力をするもので、責任を伴うものではなく、できる範囲での協力となります。



地域での支援体制を構築しましょう

1人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増えています。地域のなかで孤立しないよう、日頃から声かけや見守り活動等を実施するなど、地域の支援体制を構築することが、災害が発生したときの避難支援や安否確認などにも役立ちます。

災害が発生したときに迅速に避難できるよう、各地域で避難訓練などを実施する際には、要支援者への避難支援についても実施されますようお願いいたします。

なお、市では自主防災組織の設立支援および地域で実施する避難訓練などの支援を行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

